



ホストタウン交流 事業について

もちだ としあき
持田 敏明 議員



積極的に展開し、その効果を 本市に最大限呼び込む

問 埼玉県内及び近隣市におけるホストタウンの登録状況は。

答 県内では、本市を含めて7件が登録されている。近隣では、所沢市が埼玉県と共同でイタリアのホストタウンに登録されている。

問 これまでのホストタウン交流事業の内容は。

答 昨年9月の市役所ロビーでのキックオフイベントを皮切りに、ミャンマーからの訪問団や留学生と市内小学生との交流イベント等を行ってきた。また、民間中心の活動もあり、これらの取組が首相官邸ホームページで紹介された。

問 2020年までの事業予定と今後の課題は。

答 本市のホストタウンの取組は、今泉記念ビルマ奨学会や鶴ヶ島市国際交流協会などの民間主体の交

流から生まれたものである。このため、今後も民間との連携に重きを置き、市民とともに交流事業を進める。まずは民間主体の推進組織を発足させる予定である。

課題は、市民の気運を今以上に盛り上げていくことである。

問 ホストタウンとして本市が目指すものは。

答 ホストタウンをまちの魅力にし、シテイブプロモーションにもつなげる。オリンピック・パラリンピックの効果を最大限呼び込む。



施策に見合ったプロモーション を検討していく



「鶴ヶ島市日本一プロ ジェクト」の導入を

たかはし けんじ
高橋 剣二 議員



問 鶴ヶ島市として全国的なランキングを誇るものは何か。

答 全国的なもの把握していない。埼玉県内であれば、3年連続1位のふるさと納税、また、5年連続の待機児童ゼロなどがある。

問 観光資源や特産品に乏しい本市は、何を向上させるべきか。

答 今ある地域資源に磨きをかける、あるいは、新たに創り上げる必要がある。既存のものには脚折雨乞行事があり、新たな取組には産学官民が連携するサフラン事業やホストタウンの取組がある。

問 シテイブプロモーションサミットへの参加は。

答 これまでは参加していないが、今後は開催場所、時期、内容等を考慮して参加を検討したい。

問 鶴ヶ島日本一プロジェクトの構想について。

答 日本一プロジェクトは、市の特色や姿勢を分かりやすく、明確に示す手法として効果がある。今後は、施策の内容に見合ったプロモーションの在り方を検討していきたい。

問 シテイブプロモーション事業の今後の方向性について。

答 産業振興や若い世代の人口流入など、本市のシテイブプロモーションの目的と対象施策を明確にし、効果的にPRを行っていく。

